

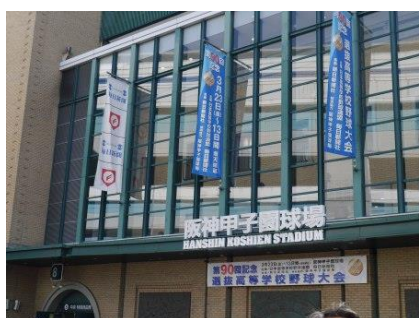
# 《 甲子園応援記 》

～ 母校の応援に甲子園に行って来ました ～

関西に春の到来を告げる「センバツ高校野球」、今年は第90回記念大会に我が母校が、2年連続17回目の出場を果たすことができました。また、夏の大会には24回出場し、全国優勝1回、準優勝2回を誇る高校野球の名門校です。

母校が甲子園に出場することは、自分の年齢がいくつになっても、心が大きく高鳴り躍動します。ここ数年、夏の大会も含めて、チョクチョク甲子園に来ているのですが、1・2回戦で敗れることが多く残念な結果に終わっていましたが、今年のチームは、昨秋の地区大会で優勝、明治神宮野球大会でベスト4など大いに期待が持てます。

当日は、友人と二人でお互い買い替えした新型バイクのツーリングを兼ねて、甲子園に行って来ました。甲子園は3年ぶりです。快晴の土曜日ということで絶好の野球観戦日和、ビックリするぐらいたくさん的高校野球ファンが来ていました。応援席の一・三塁側アルプス席の入場券購入に長蛇の列…、こんなこと、過去にはあまり記憶がありません。最近の高校野球人気を垣間見ることができました。



高校球児たちの憧れ“甲子園球場”



これをゲットするのが大変でした



IT化されても昔と同じ姿のスコアボード

試合開始時間ギリギリにようやく母校側アルプス席に入ると、すでに在校生応援団はもちろん、卒業生OB・OGや野球部OB、県人会の皆さんでほぼギッシリの満席状態で凄い熱気に溢れていました。

試合結果は、集中打と完封で予想通りの「快勝」でした。センターポールに掲がる校旗を仰ぎ見ながら大きな声でアルプス席全体で校歌斉唱。久しぶりの勝利の光景に胸が熱くなりました。

組み合わせ表によると、母校が組するAゾーンは、昨秋の各地区大会優勝の4校がひしめく“死のゾーン”。次の試合は、たぶん優勝候補の一角の神奈川の強豪校。でも、皆で力を合わせ必ず撃破します。

ただ、試合が進んでいく中で少し寂しい思いもしました。以前は憧れでもあった“応援団”の団長は真夏の試合でも学ランを着続けて一糸乱れぬ指揮で学生応援団を引っ張ります。その応援団長は、学ランは着ていましたが、女の子。また、応援団員は女の子が2人に男の子が1人(あとで女団長からもう一人いるとのこと)。今のこのご時世、応援団に入る男の子がほとんどいないみたいです。

また、試合開始直後と終了後に必ずやっていた対戦相手校との“校歌斉唱・エール交換”が全くなくなっていました。これもテレビ中継、試合の進行、応援団の入れ替え等の関係で徐々になくなっていったと思いますが、相手校に敬意を表しお互いの奮闘を讃え合う“エール交換”がなくなったのは本当に寂しい限りです。こういった長く育んできた良き伝統や魂が失われていくことが残念です。



アルプス席から眺める対戦風景



母校の得点シーン(NHKテレビ画像より)



アルプス応援席への勝利の報告と感謝の一礼



校歌が流れ感激です(NHKテレビ画像より)

最後に甲子園と言えば、懐かしいほろ苦い思い出があります。

それは入社3年目の夏の大会。その大会には、最後の夏となる怪物・江川を擁する作新学院も出場、我が母校も強力打線で県予選を圧倒的な強さで勝ち抜いてきました。甲子園での試合日には、作業机の中にトランジスタ・ラジオを忍ばせ、ハラハラしながら時々イヤホンに耳にしていました。1・2回戦は各県の伝統校と対戦しましたが、完封勝ちの大勝。いよいよ準々決勝、相手はあの作新学院にサヨナラ勝ちし、しかも剛腕投手の前評判が高い(のちにプロ入り)関東の強豪校。「あ～、これはダメだ。絶対に負け」と覚悟して年休を取ってようやく甲子園に応援に行ってきました。そうしたら、なんと、応援の力が大きかったのかその強豪校に快勝。

明日は準決勝、しかも相手は四国の名門で好投手を中心に勝ち上がってきました。いかに母校の強力打線でも得点するのは難しいだろう、最後の試合になると考え、恐る恐る上司に2日目の年休取得を申請。ひどく怒られましたが、渋々了解いただきました。そうしたら、またまた大量得点での完封勝ち。応援席は歓喜の渦の中で知らない隣の人と肩を組み勝利の校歌に感涙したものでした。

翌日の決勝戦は、野球王国・広島の名門にその名を轟かす伝統校。ただ、相手のピッチャーはこの準々、準決と比べたらややスマートな感じでこれは絶対に勝てる、夢にまで見た全国制覇。でも、決勝戦に応援に来たら3日連続の年休、絶対上司は許可してくれない、と思いつつ、自分が生きている間に母校が全国制覇することなど2度とない、と考え始めたらもう止まりませんでした。勇気を出して、再度、上司に電話をし平身低頭お願いしましたが、当然ながら、電話口の向こうで大声で何回も怒鳴られました。強行で年休を取りました。

さあ、いよいよ決勝戦、絶対に優勝！と信じて声を振り絞って応援。試合は、好ゲームを展開、両校譲らず8回を終わって2-2の同点。しかし、不運にも、9回裏に3バンド・スクイズを決められてサヨナラ負け。涙、涙、涙の敗戦でした。全国制覇は霧と消えましたが、大きな夢と希望を持たせてくれ充実した3日間を過ごすことができたことに、母校とその野球部、在校生たちに感謝！感謝！でした。

今から思うと、入社3年目で若かったとは言え、甲子園応援のために3日連続で年休を取るという随分と過激で大胆なことをしたと自分ながら呆れています。もちろん、その後は必死で仕事に精励したのは言うまでもありません。



決勝戦でのサヨナラ負けの瞬間  
(NHK 思い出の名場面 画像から)

2018.3.25

泉 明 (西京区)